

NetBackup™ リリースノート

リリース 10.3

マニュアルバージョン 3

VERITAS™

NetBackup™ リリースノート

最終更新日: 2023-12-28

法的通知と登録商標

Copyright © 2023 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Veritas Alta、NetBackup は、Veritas Technologies LLC または関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このVeritas製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所から入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Veritas Technologies LLC およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Veritasがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC
2625 Augustine Drive
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Veritas Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

CustomerCare@veritas.com

日本

CustomerCare_Japan@veritas.com

マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Veritas** の **Web** サイトで入手できます。

<https://sort.veritas.com/documents>

マニュアルに対するご意見

お客様のご意見は弊社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの誤謬脱漏などの報告をお願いします。その際には、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。ご意見は次のアドレスに送信してください。

NB.docs@veritas.com

次の **Veritas** コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問したりすることもできます。

<http://www.veritas.com/community/>

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT)

Veritas SORT (Service and Operations Readiness Tools) は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf

目次

第 1 章	NetBackup 10.3 について	8
	NetBackup 10.3 のリリースについて	8
	NetBackup の最新情報について	9
	NetBackup サードパーティの法的通知について	9
第 2 章	新機能、拡張機能および変更	10
	NetBackup の新しい拡張と変更について	10
	NetBackup 10.3 の新機能、変更点、拡張機能	10
	Veritas 用語の変更点	12
	NetBackup 10.3 の RESTful API	13
	ユニバーサル共有アクセラレータの概要	16
	NetBackup Web UI でのログのリストアとリストアログの場所	16
	MS-Windows、Standard、VMware のポリシー形式に対して NetBackup Web UI に追加されたリストア形式	16
	NetBackup Web UI に追加された追加のポリシー形式のリカバリ	17
	NetBackup Web UI の新しいポリシー機能	17
	システムの異常検出の拡張機能	17
	NetBackup におけるエントロピー計算	18
	マルチパーソン認証について	18
	多要素認証について	18
	証明書ベースの TLS (トランスポート層セキュリティ) 認証	19
	NetBackup 10.3 のサポートの追加および変更点	19
	AWS Snowball Edge のサポート	20
	NetBackup の拡張監査機能の EOL (ライフサイクル終了)	20
	NetBackup における NBAC (NetBackup アクセス制御) 認証モデル の EOL (ライフサイクル終了)	21
	Snapshot Manager のエージェントレスリストア機能を使用した資産保 護には Microsoft Windows Server 2019 以降が必要	21
	NetBackup for OpenStack での CentOS サポートの終了	21
	将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド	21
	アップグレードに必要なライセンスファイル	22
	NetBackup 10.3 へのアップグレードに時間がかかる場合がある	22

アップグレード前のデフォルトのクレデンシャルカテゴリは NONE	22
DTE (移動中のデータの暗号化) モードはデフォルトで[優先オン (Preferred On)]に設定されている	23
NetBackup 10.3 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する	23
新機能に追加された追加の権限	23
NetBackup 汎用クレデンシャル管理システムへの MSDP クラウドクレデンシャルの統合	24
SUSE Linux Enterprise Server での MSDP クラウドのサポート追加	24
10.3 MSDP サーバーで Cloud Catalyst から MSDP クラウドへの移行がサポートされない	24
NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能	25
NetBackup for Oracle の新機能	25
Qumulo プラグインユーザー向けの Snapshot Manager for Data Center 10.3 へのアップグレード	26
新しい D-NAS 機能	26

第 3 章

操作上の注意事項	27
NetBackup 10.3 の操作上の注意事項について	27
NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項	28
Windows で NetBackup 10.3 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す	28
ネイティブインストールの要件	28
NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある	29
HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて	29
NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項	30
データベースコマンドの変更点	30
一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減	30
Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する	31
NetBackup マルウェアユーティリティから応答を取得できない	31
NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項	32
[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する	32
NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する	32

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、 NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する	33
NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項	33
PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)] というエラーが表示される	33
NetBackup 10.3 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が 失敗する	34
Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動 的に起動しないことがある	34
NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項	35
NetBackup バージョン 10.3 から 10.1 までの AIR (自動イメージレプ リケーション) が機能しない	35
Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバック アップが失敗する	35
レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリスト アできない	35
NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)	36
AWS マーケットプレース AMI から作成されたインスタンスでインデッ クス付けがサポートされない	36
NetBackup NAS の操作上の注意事項	36
ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないこと がある	36
RD ストレージユニットがレプリケーションターゲットとして一覧表示され ない	37
NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項	37
CentOS リポジトリミラー URL の更新	37
haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする	37
増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない	37
NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup プライマリサー バーがトークンを再発行しない	38
スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに 成功メッセージが表示される	38
NBCA を使用して NetBackup プライマリサーバーに接続できない	38
リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマット できない	39
リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される	39
新しい NetBackup VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構 成に失敗する	39

	NetBackup クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない	39
	ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる	40
	再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない	40
	CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される	40
	NetBackup Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない	40
	多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscribable」で失敗する	40
	SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない	41
	NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項	41
	データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート	41
	特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする	42
付録 A	NetBackup ユーザーの SORT について	43
	Veritas Services and Operations Readiness Tools について	43
付録 B	NetBackup のインストール要件	45
	NetBackup のインストール要件について	45
	NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新	46
	NetBackup 10.3 のバイナリサイズ	47
付録 C	NetBackup の互換性の要件	50
	NetBackup のバージョン間の互換性について	50
	NetBackup の互換性リストと情報について	51
	NetBackup の End-of-Life のお知らせについて	51
付録 D	他の NetBackup マニュアルおよび関連マニュアル	53
	NetBackup の関連マニュアルについて	53

NetBackup 10.3 について

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.3 のリリースについて](#)
- [NetBackup の最新情報について](#)
- [NetBackup サードパーティの法的通知について](#)

NetBackup 10.3 のリリースについて

『NetBackup リリースノート』のドキュメントは NetBackup のバージョンのリリースに関する情報のスナップショットとして機能します。古い情報およびリリースに適用しない情報はリリースノートから削除されるか、または NetBackup のマニュアルセットの別の所に移行されます。

p.10 の「[NetBackup の新しい拡張と変更について](#)」を参照してください。

EEB およびリリース内容について

NetBackup 10.3 には、以前のバージョンの NetBackup で顧客に影響を与えていた既知の問題の多くに対する修正が組み込まれています。これらの修正の一部は、お客様固有の問題に関連します。このリリースに組み込まれた顧客関連の修正のいくつかは、Emergency Engineering Binary (EEB) として利用可能になりました。

NetBackup 10.3 で修正された既知の問題を示す EEB および Etrack のリストは、Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトと、『NetBackup Emergency Engineering Binary ガイド』にあります。

p.43 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup アプライアンスのリリースについて

NetBackup アプライアンスは、事前設定バージョンの NetBackup を含むソフトウェアパッケージを実行します。新しいアプライアンスソフトウェアリリースの開発時、NetBackup の

最新バージョンがアプライアンスコードの構築基盤として使われます。たとえば、**NetBackup Appliance 3.1** は **NetBackup 8.1** を基盤としています。この開発モデルにより、**NetBackup** 内でリリースされたすべての適用可能機能、拡張機能、修正が確実にアプライアンスの最新リリースに含まれます。

NetBackup アプライアンスソフトウェアは、その構築基盤となる **NetBackup** リリースと同時に、またはそのすぐ後にリリースされます。**NetBackup** アプライアンスを利用する場合、実行する **NetBackup** アプライアンスバージョンの『**NetBackup** リリースノート』を確認する必要があります。

アプライアンス固有のマニュアルは次の場所から入手できます。

<http://www.veritas.com/docs/000002217>

NetBackup の最新情報について

NetBackup の最新情報や発表については、次の場所から利用可能な **NetBackup** の最新情報 Web サイトを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000040237>

他の **NetBackup** 固有の情報は、次の場所から提供されています。

https://www.veritas.com/support/en_US/15143.html

NetBackup サードパーティの法的通知について

NetBackup には、ベリタスによる所有者の揭示が義務付けられているサードパーティソフトウェアが含まれている場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。**NetBackup** に含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。

これらのサードパーティプログラムの所有権通知とライセンスは、次の Web サイトで入手できる『**NetBackup** サードパーティの法的通知』文書に記載されています。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

新機能、拡張機能および変更

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の新しい拡張と変更について](#)
- [NetBackup 10.3 の新機能、変更点、拡張機能](#)

NetBackup の新しい拡張と変更について

NetBackup リリースには、新機能および製品修正に加えて顧客対応の新しい拡張と変更が含まれることがよくあります。よくある拡張の例には、新しいプラットフォームのサポート、アップグレードされた内部ソフトウェアコンポーネント、インターフェースの変更、拡張された機能のサポートなどがあります。新しい拡張と変更のほとんどは、『[NetBackup リリースノート](#)』および [NetBackup](#) の互換性リストに文書化されます。

メモ: 『[NetBackup リリースノート](#)』には、特定の [NetBackup](#) バージョンレベルでそのリリースのタイミングで開始される新しいプラットフォームサポートのみがリストされます。ただし、Veritas によって、以前のバージョンの [NetBackup](#) へのプラットフォームサポートのバックデートが定期的に行われます。最新のプラットフォームサポートのリストについては、[すべてのバージョンの NetBackup 互換性リスト](#)を参照してください。

p.8 の「[NetBackup 10.3 のリリースについて](#)」を参照してください。

p.51 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

NetBackup 10.3 の新機能、変更点、拡張機能

NetBackup 10.3 の新機能、変更点、および拡張機能は、以下のカテゴリ別にグループ化されます。トピックに関する詳細情報をお読みになるにはリンクを選択します。

新機能

- 「Veritas 用語の変更点」
- 「NetBackup 10.3 の RESTful API」
- 「ユニバーサル共有アクセラレータの概要」
- 「NetBackup Web UI でのログのリストアとリストアログの場所」
- 「MS-Windows、Standard、VMware のポリシー形式に対して NetBackup Web UI に追加されたリストア形式」
- 「NetBackup Web UI に追加された追加のポリシー形式のリカバリ」
- 「NetBackup Web UI の新しいポリシー機能」
- 「システムの異常検出の拡張機能」
- 「NetBackup におけるエントロピー計算」

安全な通信の機能、変更点、および拡張機能

- **メモ:** NetBackup 10.3 をインストールまたは 8.1 より前のリリースからアップグレードする前に、『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』を必ずお読みになり、内容をご確認ください。NetBackup 8.1 には、NetBackup コンポーネントの安全な通信を向上させる多くの拡張機能が含まれています。『NetBackup 安全な通信 (最初にお読みください)』というドキュメントでは、次の拡張機能の特徴と利点を説明しています。

[NetBackup 安全な通信 \(最初にお読みください\)](#)

- 「マルチパーソン認証について」
- 「多要素認証について」
- 「証明書ベースの TLS (トランスポート層セキュリティ) 認証」

サポートの変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.3 のサポートの追加および変更点」
- 「AWS Snowball Edge のサポート」
- 「NetBackup の拡張監査機能の EOL (ライフサイクル終了)」
- 「NetBackup における NBAC (NetBackup アクセス制御) 認証モデルの EOL (ライフサイクル終了)」
- 「Snapshot Manager のエージェントレスリストア機能を使用した資産保護には Microsoft Windows Server 2019 以降が必要」
- 「NetBackup for OpenStack での CentOS サポートの終了」

- 「将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド」

インストール、アップグレード、および構成の変更点と拡張機能

- 「アップグレードに必要なライセンスファイル」
- 「NetBackup 10.3 へのアップグレードに時間がかかる場合がある」
- 「アップグレード前のデフォルトのクレデンシャルカテゴリは NONE」
- 「DTE (移動中のデータの暗号化) モードはデフォルトで[優先オン (Preferred On)] に設定されている」

クラウド関連の変更点と拡張機能

- 「NetBackup 10.3 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する」
- 「新機能に追加された追加の権限」
- 「NetBackup 汎用クレデンシャル管理システムへの MSDP クラウドクレデンシャルの統合」
- 「SUSE Linux Enterprise Server での MSDP クラウドのサポート追加」
- 「10.3 MSDP サーバーで Cloud Catalyst から MSDP クラウドへの移行がサポートされない」

作業負荷とデータベースエージェントの変更点と拡張機能

- 「NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能」
- 「NetBackup for Oracle の新機能」

NAS データ保護の変更点と拡張機能

- 「Qumulo プラグインユーザー向けの Snapshot Manager for Data Center 10.3 へのアップグレード」
- 「新しい D-NAS 機能」

Veritas 用語の変更点

Veritas では最新の用語を使用するため、特定の古い用語を最新の用語を置き換え始めています。

メモ: Veritas では用語の更新を続けているため、非推奨の用語と新しい用語が同じ意味で使用される場合があります。

非推奨の用語	新しい用語
マスター	プライマリ
スレーブ	セカンダリサーバーまたはメディアサーバー
ホワイトリスト	許可リスト
ブラックリスト	ブロックリスト
ホワイトハット	倫理的
ブラックハット	非倫理的

NetBackup 10.3 の RESTful API

NetBackup 10.3 は、更新された RESTful アプリケーションプログラミングインターフェース (API) と新しい RESTful API の両方を備えています。これらの API は、REST (Representational State Transfer) アーキテクチャで構築されています。これらは、ご使用の環境で NetBackup を構成および管理できる Web サービスベースのインターフェースを提供します。

API のマニュアル

NetBackup API のマニュアルは、SORT とプライマリサーバーにあります。「はじめに」のセクションで、該当するバージョンのトピックと新機能のトピックを参照してください。

- SORT の場合:

NetBackup API のマニュアルは、SORT で入手できます。

[\[HOME\]](#)、[\[ナレッジベース \(KNOWLEDGE BASE\)\]](#)、[\[文書 \(Documents\)\]](#)、[\[製品バージョン \(Product Version\)\] 10.3](#)

[\[API リファレンス \(API Reference\)\]](#)の下を参照します。『はじめに』のマニュアルには、NetBackup API の使用に関する背景情報が記載されています。API YAML ファイルも参照できますが、実用的ではありません。SORT 上のマニュアルからは API をテストできません。

- プライマリサーバーの場合:

API は、プライマリサーバー上の YAML ファイルに格納されています。

`https://<primary_server>/api-docs/index.html`

API は Swagger 形式で記述されています。この形式では、コードを確認し、API の実際の呼び出しを実行して機能をテストできます。Swagger API を使用するには、プライマリサーバーと API にアクセスするための適切なセキュリティ権限が必要です。

注意: Veritas は、開発環境でのみ API をテストすることをお勧めします。Swagger ファイルから実際の API の呼び出しを実行できるため、本番環境では API をテストしないでください。

新しい API

NetBackup 10.3 には、次の機能強化された API が新たに導入されました。

- ライセンス:
 - 資格の追加。
 - 資格の取得。
 - 資格の削除。
- マルチパーソン認証:
 - ID による MPA チケットの更新。
 - MPA チケットリストの取得。
 - ID による MPA チケットの取得。
 - MPA 構成のリストの取得。
 - ID による MPA 構成の更新。
- 事前チェック:
 - 作業負荷資産での事前チェックの実行。
- レートリミッタ:
 - レート制限構成の作成。
 - レート制限構成の更新。
 - レート制限構成の削除。
 - レート制限構成のリストの取得。
 - ID によるレート制限構成の取得。
- OpenStack の作業負荷:
 - OpenStack リカバリポイントのインスタントアクセスマウントの作成。
 - ID によるインスタントアクセスマウントの取得。
 - インスタントアクセスマウントのリストの取得。
 - ID によるインスタントアクセスマウントの削除。
- NetBackup OpenStack VM サーバー:
 - NetBackup OpenStack VM の登録。
 - NetBackup OpenStack VM の削除。
- メディアサーバー:
 - メディアサーバーの削除。

- メディアサーバーのディレクトリ情報の取得。
- メディアサーバーの状態の更新。
- メディアサービスのデーモン状態の更新。
- リストアログ:
 - リストアログ詳細の ID による取得。
 - リストアログファイルの ID によるダウンロード。
 - リストアログファイルの ID による削除。
- Snapshot Manager:
 - Snapshot Manager の NetBackup への登録。
- 異常の拡張機能:
 - 拡張機能用の異常リストの取得。
 - 拡張機能用の ID による異常の取得。
 - 拡張機能用の ID による異常レコードの削除。
 - ID による異常状態の更新。
 - ID によるテンプレート構成の取得。
 - ID による構成の作成。
 - ID による構成の更新。
 - ID による構成の取得。

バージョン化された API

これらは、最新の変更のために NetBackup 10.3 でバージョン化された API です。適切なバージョンを指定することで、これらの API の以前のバージョンも引き続きサポートされます。詳しくは、SORT の API リファレンスのバージョン管理に関するセクションを参照してください。

POST snapshot-mgmt-servers:

- `POST /config/servers/snapshot-mgmt-servers` には、次の属性の変更があります。
 - `username`、`password`、`fingerprint`、および `securityToken` が、オブジェクト `snapshotMgmtServer` の要求本文ペイロードから削除されます。
 - これらの属性は、TLS 証明書ベースの認証メカニズムが Snapshot Manager 通信に使用されるためサポートされません。

ユニバーサル共有アクセラレータの概要

ユニバーサル共有アクセラレータは、オブジェクトストアを使用したユニバーサル共有機能を利用します。主な違いは、オブジェクトストアを使用したユニバーサル共有はストレージサーバー側にあり、ユニバーサル共有アクセラレータはクライアント側にある点です。ユニバーサル共有アクセラレータは、**NetBackup** クライアントパッケージとともに提供されます。ユーザーが **NetBackup Web** コンソールからユニバーサル共有アクセラレータを作成するには、先にユニバーサル共有アクセラレータ機能を有効にして **NetBackup** クライアントをインストールする必要があります。

詳しくは、『**NetBackup 重複排除ガイド**』を参照してください。

NetBackup Web UI でのログのリストアとリストアログの場所

NetBackup 10.3 では、**NetBackup Web UI** にリストアログが追加されました。ジョブ ID をクリックすると、リストアログが表示されます。リストアログは、次のポリシー形式に対して作成されます。

BigData	Hyper-V	NDMP
Cloud-object-store	Hypervisor – Nutanix	Standard
FlashBackup	MS-Windows	Universal-Share
FlashBackup-Windows	NAS-Data-Protection	VMware、エージェントベースのリカバリ

Web UI と **NetBackup API** のログは、プライマリサーバー上の次のディレクトリに書き込まれます。(NetBackup 管理コンソールのログは別の場所書き込まれ、**Web UI** には表示されません。同様に、**Web UI** のログは管理コンソールに表示されません。)

Windows の場合:

```
install_path¥NetBackup¥var¥global¥wmc¥user_ops¥username¥logs
install_path¥NetBackup¥var¥global¥wmc¥user_ops¥username¥jobs
```

UNIX の場合:

```
/usr/opensv/var/global/wmc/user_ops/username/logs
/usr/opensv/var/global/wmc/user_ops/username/jobs
```

MS-Windows、Standard、VMware のポリシー形式に対して NetBackup Web UI に追加されたリストア形式

NetBackup 10.3 では、MS-Windows、Standard、VMware のポリシー形式に次のリストア形式が追加されます。

- アーカイブバックアップ
- 最適化されたバックアップ (MS-Windows のみ)
- raw パーティションのバックアップ
- True Image Backup
- 指定した時点のロールバック (Standard のみ)
- 仮想ディスクのリストア (VMware)
- 仮想マシンのバックアップ (Hypervisor-Nutanix)

NetBackup Web UI に追加された追加のポリシー形式のリカバリ

NetBackup 10.3 では、次のポリシー形式のリカバリサポートが追加されています。

- BigData (Hadoop、HBase、MongoDB)
- FlashBackup
- FlashBackup-Windows
- Hyper-V
- Hypervisor - Nutanix
- NAS-Data-Protection

NetBackup Web UI の新しいポリシー機能

このリリースでは、次のポリシー形式の新機能が提供されます。

- ポリシー形式を編集するための NetBackup Web UI 機能。
 ユーザーはポリシーのポリシー形式を変更できます。ポリシー形式を変更すると、ポリシーのスケジュール形式とその他の設定が無効になる場合があります。
- 追加のポリシー形式のサポート: Hyper-V

システムの異常検出の拡張機能

NetBackup では、重要な操作中に次のようなシステムの異常を検出できるようになりました。

- 疑わしい状況下でオフラインになっている NetBackup クライアント。
 「クライアントオフライン」の異常は、NetBackup ホスト上の侵害されたファイルシステムに起因するオフラインクライアントを検出する機能を追加します。異常が検出されると、NetBackup では影響を受けるクライアントに対して重要アラートが生成されます。
- NetBackup イメージの手動による異常な有効期限の終了または有効期限の変更。

「イメージの有効期限」の異常は、特権ユーザーがバックアップイメージを期限切れにする異常な試行を検出します。異常が検出されると、NetBackup は重要アラートを生成してユーザーを識別します。

事前定義済みのルールまたは条件を使用して、システムの異常を生成することもできます。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

NetBackup におけるエントロピー計算

NetBackup 10.3 以降のクライアントでは、エントロピーと呼ばれる追加のリスク信号がインラインで計算されます。これにより、検出される異常の質が向上します。エントロピーはファイルコンテンツのランダム性の測定値です。ファイルを暗号化する脅威ベクトルは、エントロピーを突然変更する傾向があります。エントロピーメトリックは、このような潜在的な悪意のあるアクティビティを検出するのに役立つ、Veritas Alta View の異常検出に使用されます。異常アクティビティが示された場合は、潜在的な悪意のある実行元がないかシステムをチェックし、疑わしいアクティビティが検出された場合はそれらのイメージをリカバリポイントとして使用しないことをお勧めします。

マルチパーソン認証について

バージョン 10.3 以降では、NetBackup はマルチパーソン認証をサポートします。

NetBackup セキュリティ管理者は、マルチパーソン認証を構成できます。NetBackup プライマリサーバーを望ましくない行為または悪意のある行為からプロアクティブに保護するために、その処理の実行が許可される前に、第 2 の認可済みユーザーが処理を承認するようにします。特定の操作に対してマルチパーソン認証を構成する場合、関連付けられた操作は、NetBackup Web UI または REST API を使用してのみ実行できます。NetBackup 管理コンソールを使用して操作を実行することはできません。

マルチパーソン認証をバイパスするために、必要な操作を実行するための承認を必要としない除外されるユーザーとして関連付けられたユーザーを追加できます。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

多要素認証について

多要素認証は、パスワードだけでなくより多くの情報を入力することをユーザーに要求するマルチステップのアカウントログインプロセスです。第 2 レベルの認証は、システムパスワードが侵害された場合に、権限のないアカウントアクセスを防ぐのに役立ちます。この方法は、アクセス権を付与する前に追加の認証手順(または要素)を要求することで、盗まれたクレデンシャルに対する保護を確保します。一般的な要素は、ユーザー名とパスワード、認証アプリケーションの数値コード、または物理セキュリティキーです。NetBackup は、時間ベースのワンタイムパスワードをサポートします。ワンタイムパスワードは、Microsoft Authenticator や Google Authenticator などの一般的に利用可能な認証アプリケーション

ンを使用して機能します。NetBackup ユーザーは、自分のユーザーアカウントに多要素認証を構成できます。NetBackup セキュリティ管理者によってドメインに適用されている場合は、正常に Web UI にサインインできるようにするために、すべてのユーザーが多要素認証を構成する必要があります。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を参照してください。

証明書ベースの TLS (トランスポート層セキュリティ) 認証

NetBackup 10.3 以降、クレデンシヤルベースの認証は、NetBackup プライマリサーバーと Snapshot Manager の間の証明書ベースの TLS (トランスポート層セキュリティ) 認証に置き換えられました。Snapshot Manager は、引き続き NetBackup CA/外部 CA 構成のサポートを提供します。

flexsnap_configure CLI は Snapshot Manager に存在し、配備エクスペリエンスが単純化されるように拡張されました。これは、次のような複数のサポート可能オプションに対するラッパーです。

- コンテナの健全性状態の確認
- コンテナのインストールとアンインストールおよび起動と停止
- Serverinfo オプションによるプライマリサーバーと Snapshot Manager ホストからの証明書情報のフェッチ
- 検証オプションによる ECA 証明書の健全性の検証
- トラストストアオプションによる、Snapshot Manager トラストストアの一覧表示または更新
- Snapshot Manager と拡張機能の証明書の更新に使用される更新オプション

Snapshot Manager のアップグレードは、オンプレミスのストレージとクラウドの作業負荷のシナリオをシームレスに処理します。

旧バージョンのメディアサーバーとクライアントは、古い Snapshot Manager クレデンシヤルの代わりに動的に生成された一時的なクレデンシヤルを使用し、NetBackup 10.3 プライマリサーバーおよび Snapshot Manager とシームレスに機能し続けます。

マーケットプレイスや Cloud Scale などのその他の配備方法も更新されました。

NetBackup 10.3 のサポートの追加および変更点

メモ: この情報は変更されることがあります。最新の製品およびサービスのサポートの追加および変更については、「[NetBackup Compatibility List for all Versions](#)」を参照してください。

NetBackup 10.3 以降では、次の製品およびサービスがサポートされるようになりました。

- プラットフォーム
 - AlmaLinux 8 と 9
- 仮想化
 - VMware vRealize バージョン 2.3、VMware vRealize Orchestrator Version 8.11、8.13 用 Veritas NetBackup プラグイン
- データベースエージェント
 - Ubuntu 22.04 の MariaDB 10
 - Ubuntu 20.04 の MariaDB 10
 - Windows Server 2022 の PostgreSQL 15
 - Red Hat Enterprise Server 8 の PostgreSQL 15
 - Red Hat Enterprise Server 7 の PostgreSQL 15
 - Oracle Linux 8 の PostgreSQL 15
 - Red Hat Enterprise Linux 9 上の MongoDB 6.0
 - Red Hat Enterprise Linux 9 上の MongoDB 7.0
 - Ubuntu 20.04 の MySQL 8.0
 - Ubuntu 22.04 の MySQL 8.0
 - Rocky Linux 8 の PostgreSQL 15
 - Rocky Linux 9 の PostgreSQL 15

AWS Snowball Edge のサポート

NetBackup は、AWS (アマゾンウェブサービス) S3 に対してデータをインポートまたはエクスポートするためにオンボードストレージを使用する AWS Snowball Edge デバイスをサポートします。デバイスがオンプレミスに到着したら、NetBackup はデータをデバイスに格納し、その後 AWS にインポートできます。NetBackup では、イメージ共有によってデバイスにロードされた NetBackup データもリカバリできます。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

NetBackup の拡張監査機能の EOL (ライフサイクル終了)

NetBackup 10.2.0.1 は、拡張監査機能をサポートする最後の NetBackup バージョンでした。

NetBackup 10.3 以降では、拡張監査はサポートされません。

拡張監査機能は、RBAC (役割ベースのアクセス制御) 機能で利用可能です。詳しくは、次の記事を参照してください。

[拡張監査機能の移行](#)

NetBackup における NBAC (NetBackup アクセス制御) 認証モデルの EOL (ライフサイクル終了)

NBAC (NetBackup アクセス制御) の認証モデルが EOL (ライフサイクル終了) に達し、今後のリリースでサポートされなくなります。10.3 では、既存の NBAC ユーザーグループを NetBackup の RBAC (役割ベースのアクセス制御) のデフォルトの役割またはカスタムの役割にマッピングすることをお勧めします。詳しくは、

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100060497 を参照してください。

Snapshot Manager のエージェントレスリストア機能を使用した資産保護には Microsoft Windows Server 2019 以降が必要

今後リリースされる NetBackup のバージョンでは、NetBackup Snapshot Manager のエージェントレス機能を使用した資産保護に Microsoft Windows Server 2019 以降が必要になります。この機能について詳しくは、次のトピックを参照してください。

[NetBackup Snapshot Manager のエージェントレス機能を使用した資産の保護](#)

NetBackup for OpenStack での CentOS サポートの終了

Veritas では、CentOS で実行されている NetBackup for OpenStack のサポート終了を計画しています。このオペレーティングシステムはサポート対象のプラットフォームではなくなります。また、これをサポートする最後のリリースは NetBackup 10.3 です。

サポートは、Veritas for OpenStack の古いバージョンでは継続し、公開されている [Veritas 製品ライフサイクル終了ポリシー](#) のガイドラインに従います。

将来のリリースで廃止される予定のいくつかのシャットダウンコマンド

NetBackup プロセスとデーモンのシャットダウン用の新しい、詳細に文書化されたコマンドが今後のリリースで提供される予定です。その時点で、次のコマンドは利用できなくなります。

- `bp.kill_all`
- `bpdown`
- `bpclusterkill`

この変更に応じた計画を立ててください。新しいコマンドは、今後のリリースノートおよび『NetBackup コマンドリファレンスガイド』で発表されます。

アップグレードに必要なライセンスファイル

NetBackup 10.3 以降、NetBackup ではライセンスキーの代わりにライセンスファイルが使用されます。プライマリサーバーのアップグレード処理の一環として、ライセンスファイルをダウンロードするか、一時的な本番用ライセンスを使用する必要があります。一時的な本番用ライセンスは、NetBackup に含まれているためダウンロードする必要はありません。

NetBackup 8.1.2 より前のバージョンからのアップグレードでは、VEMS (Veritas Entitlement Management System) からダウンロードした本番用ライセンスか、評価用ライセンスのみがサポートされます。評価用ライセンスは、NetBackup に含まれているためダウンロードする必要はありません。8.1.2 より前のバージョンから NetBackup をアップグレードする場合は、一時的な本番用ライセンスを使用できません。

Veritas は、すべてのアップグレードに、VEMS からダウンロードした本番用ライセンスを使用することをお勧めします。本番用ライセンスにアクセスできない場合は、ダウンロードされていない組み込みライセンスのいずれかを使用できます。使用するライセンスは、NetBackup のバージョンによって異なります。

評価用ライセンスは、NetBackup 8.1.2 より前の NetBackup バージョンからアップグレードする場合にのみ使用されます。評価用ライセンスは 60 日間有効です。アップグレードの直後に、評価用の残りの日数を示すアラートが Web UI に表示されます。

一時ライセンスは、NetBackup 8.1.2 以降から NetBackup 10.3 以降へのアップグレードで使用されます。一時ライセンスは 60 日間有効です。アップグレードの直後に、一時ライセンスの期限が切れるまでの残りの日数を示すアラートが Web UI に表示されます。

ライセンスファイルに関する詳細情報を参照できます。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100058779

NetBackup 10.3 へのアップグレードに時間がかかる場合がある

NetBackup 9.1 以降のリリースからアップグレードする場合、NetBackup のインストールディレクトリのファイル数によっては、Windows での NetBackup プライマリサーバーのアップグレードに時間がかかります。詳しくは、『NetBackup アップグレードガイド』を参照してください。

アップグレード前のデフォルトのクレデンシャルカテゴリは NONE

バージョン 10.2 より前のバージョンから NetBackup 10.3 にアップグレードする場合、アップグレード前に作成されるクレデンシャルのデフォルトカテゴリは NONE になります。

また、Web UI の [クレデンシャルの管理 (Credential Management)] タブ以外の場所から作成され、カテゴリが指定されていないクレデンシャルのデフォルトのカテゴリも NONE になります。

DTE (移動中のデータの暗号化) モードはデフォルトで [優先オン (Preferred On)] に設定されている

NetBackup プライマリサーバーの新規インストールの場合、グローバルな DTE (移動中のデータの暗号化) モードはデフォルトで [優先オン (Preferred On)] に設定されます。

プライマリサーバーのアップグレードでは、既存のグローバル DTE モード値は変更されません。

デフォルトで DTE モードが [優先オン (Preferred On)] に設定されていることで、ジョブスループットのパフォーマンスに影響を受ける可能性があることに注意してください。

NetBackup 10.3 のインストール後またはこのバージョンへのアップグレード後すぐにプライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する

NetBackup 環境でクラウドストレージを使用する場合には、NetBackup 10.3 をインストールするか、そのバージョンにアップグレードした直後に、NetBackup プライマリサーバー上のクラウド構成ファイルを更新する必要がある場合があります。NetBackup 10.3 へのアップグレード後にクラウドプロバイダまたは関連の拡張機能がクラウド構成ファイルから利用できない場合、関連する操作は失敗します。

Veritas は次回のリリースを待たずに、クラウド構成ファイルに新しいクラウドサポートを継続的に追加します。クラウド構成ファイルの更新は、クラウド構成パッケージのバージョン 2.11.0 以降にクラウドストレージプロバイダが追加された場合のみ必要です。

バージョン 2.11.1 以降には次のクラウドサポートが追加されていますが、NetBackup 10.3 の最終ビルドには含まれていませんでした。

- COSP (クラウドオブジェクトストア保護) - Quantum ActiveScale システム (S3)

最新のクラウド構成パッケージについては、次の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/content/support/en_US/downloads/update.UPD971796

クラウドストレージ構成ファイルの追加方法については、次のテクニカルノートを参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100039095>

新機能に追加された追加の権限

次の表に、『NetBackup Snapshot Manager インストールおよびアップグレードガイド』に追加の権限が記載されている各クラウドプロバイダ向けの機能を示します。

クラウドプロバイダ 機能

Microsoft Azure	<ul style="list-style-type: none"> ■ カスタマ管理キーの一覧表示。 ■ ADE (Azure ディスク暗号化) 拡張機能のインストールと、詳細の取得 (インストールされている場合)。 ■ 暗号化に使用する Key Vault への権限の割り当て。
アマゾンウェブサービス	AWS Systems Service Manager を使用したアプリケーションの整合性スナップショット。
Google Cloud Platform	CMK 暗号化ディスクのリストア。

NetBackup 汎用クレデンシャル管理システムへの MSDP クラウドクレデンシャルの統合

CMS と MSDP クラウドが統合され、クラウド LSU クレデンシャルが格納されるようになりました。NetBackup は、クラウドコネクタの代わりに OCS D を使用して LSU を管理するように変更されました。クレデンシャルの格納とアクセスは、現在のクレデンシャル管理の実装 (ユーザー名とパスワード) から置き換えられて、NetBackup CMS から行われるようになります。

詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』を確認してください。

SUSE Linux Enterprise Server での MSDP クラウドのサポート追加

MSDP クラウドの基本機能が SLES (SUSE Linux Enterprise Server) で有効になりました。

SLES では、イメージ共有、マルウェアスキャン、ユニバーサル共有、インスタントアクセスなどの高度な機能はまだサポートされていません。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』を参照してください。

10.3 MSDP サーバーで Cloud Catalyst から MSDP クラウドへの移行がサポートされない

`nbdecommission -migrate_cloudcatalyst` コマンドを使用して Cloud Catalyst を MSDP クラウドに移行するには、NetBackup バージョン 10.0.0.1 から 10.2.0.1 までを実行している MSDP サーバーを使用する必要があります。

プライマリサーバーは NetBackup 10.3 を実行できますが、`nbdecommission` が実行される MSDP サーバーは、上記の範囲のいずれかの NetBackup バージョンを実行している必要があります。

詳しくは、『NetBackup 重複排除ガイド』の「付録 B」を参照してください。

NetBackup for Microsoft SQL Server の新機能

このリリースでは次の機能を利用できます。

- ログ配布環境では、ログの切り捨てはオフになります。
NetBackup はログ配布環境を検出し、**SQL Server** インテリジェントポリシー、バッチファイルベースのポリシー、または保護計画で実行されるバックアップのログの切り捨てをオフにします。この機能は、ログ配布のターゲットのシーケンス外イベントを防ぎます。
- グループ化されたスナップショット向けの機能が追加されました。
 グループ化されたスナップショットは、データベースのグループを一緒に静止し、それらをグループとしてバックアップするためにスナップショットを作成します。
 - **SQL Server** インテリジェントポリシーでの動的グループ化スナップショットのサポートが追加されました。**NetBackup** は、[スナップショットのグループサイズ (Group size for snapshots)] に指定した値まで、データベースを自動的に検出してグループ化します。これは、**NetBackup 10.3** の **SQL Server** インテリジェントポリシーの新しい属性です。
 - グループサイズの制限 (**64**) に達すると、追加のスナップショットが作成されます。
 - マスターデータベースがポリシーに含まれている場合は、個別のスナップショットが作成されます。
 - 可用性データベースと標準データベースの両方が同じポリシーに含まれている場合、各可用性グループと標準データベースに対して個別のスナップショットが作成されます。
- バッチファイルベースのポリシーを使用して、グループ化されたスナップショットのグループサイズの制限が増加しました。
 バッチファイルベースのポリシーの場合、グループ化されたスナップショットのサポートは引き続きキーワード `GROUPSIZE` で使用できます。グループサイズの制限が **32** から **64** に増加しました。

NetBackup for Oracle の新機能

NetBackup 10.3 では、次の新しい **Oracle** の機能が **NetBackup Web UI** に追加されました。

- データベースとプラガブルデータベースからクローンを作成します。
NetBackup を使用した **Oracle** のクローン作成の要件と制限事項については、『**NetBackup for Oracle 管理者ガイド**』の **Oracle** クローン作成に関する章を参照してください。
- クローン操作で使用するために **Oracle** クレデンシャルの格納に使用できる **Oracle** クレデンシャルの種類。

- クローン操作を実行する Oracle 管理者に限定された権限を持つカスタム RBAC の役割を作成する機能。

Qumulo プラグインユーザー向けの Snapshot Manager for Data Center 10.3 へのアップグレード

Snapshot Manager for Data Center 10.3 へのアップグレードを実行する Qumulo プラグインユーザーは、次の手順を実行する必要があります。

- Snapshot Manager for Data Center 10.3 へのアップグレードを開始する前に、以前のすべてのスナップショットを期限切れにします。
- 古いスナップショットを保持するには、最初に新しいスナップショットとバックアップイメージの管理用に新しい Snapshot Manager for Data Center 10.3 を構成します。以前のイメージ用に前の Snapshot Manager for Data Center を使用します。古いスナップショットが使用されなくなったら、古い Snapshot Manager for Data Center を削除します。

新しい D-NAS 機能

NetBackup 10.3 には、D-NAS (Dynamic NAS) 用に次の新機能が含まれています。

- D-NAS バックアップパフォーマンスの大幅な改善。環境によって、バックアップ時間を 3 から 5 倍短縮。
- D-NAS バックアップ用の NetApp SnapDiff V3 の統合とインデックス付けのサポート。
- NetApp CVO (Cloud Volumes ONTAP) のサポート。
- Dell EMC PowerScale (Isilon) を使用したスナップショットレプリケーションのサポート

詳しくは、『NetBackup NAS 管理者ガイド』を参照してください。

操作上の注意事項

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup 10.3 の操作上の注意事項について](#)
- [NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項](#)
- [NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup Snapshot Manager \(以前の NetBackup CloudPoint\)](#)
- [NetBackup NAS の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項](#)
- [NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項](#)

NetBackup 10.3 の操作上の注意事項について

NetBackup の操作上の注意事項は、NetBackup のマニュアルセットまたはベリタスのサポート Web サイトのどこにも文書化されない可能性のある NetBackup のさまざまな操作に関する重要な点について説明したものです。操作上の注意事項は、NetBackup の各バージョンに対応する形で『NetBackup リリースノート』に記載されます。通常、操作上の注意事項には、既知の問題、互換性の問題、およびインストールとアップグレードに関する追加情報が含まれます。

操作上の注意事項は、NetBackup のバージョンがリリースされた後に追加または更新されることがよくあります。この結果、オンラインバージョンの『NetBackup リリースノート』またはその他の NetBackup マニュアルは、リリース後の更新となる場合があります。

NetBackup の特定のリリースに関する最新版のマニュアルセットには、ベリタスのサポート Web サイトの次の場所でアクセスできます。

[NetBackup のリリースノート](#)、[管理者ガイド](#)、[インストールガイド](#)、[トラブルシューティングガイド](#)、[スタートガイド](#)、[ソリューションガイド](#)

NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまな方法を使って異機種混合環境でインストールしたり、アップグレードしたりすることができます。NetBackup は、同一環境で混在しているさまざまなリリースレベルの NetBackup サーバーとクライアントとも互換性があります。このトピックでは、NetBackup 10.3 のインストール、アップグレード、ソフトウェアパッケージに関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

Windows で NetBackup 10.3 のアップグレードが失敗した場合に以前のログフォルダ構造に戻す

root 以外または管理者以外で起動したプロセスのログについて、レガシーログフォルダ構造が変更されました。新しいフォルダ構造は、プロセスログディレクトリ名の下に作成されます。詳しくは、『[NetBackup ログリファレンスガイド](#)』のレガシーログのファイル名形式に関するセクションを参照してください。

Windows の場合、NetBackup 10.3 へのアップグレードが失敗してロールバックが発生した場合は、次のコマンドを実行して、以前のバージョンの NetBackup での作業を続行します。

```
mklogdir.bat -fixFolderPerm
```

詳しくは、『[NetBackup コマンドリファレンスガイド](#)』で mklogdir コマンドの説明を参照してください。

ネイティブインストールの要件

NetBackup 8.2 で初期インストールが変更され、現在は応答ファイルが必要です。この変更は、ネイティブパッケージを使用して VM テンプレートを作成する、または製品を構成せずに NetBackup パッケージをインストールする必要があるユーザーに悪影響を及ぼす場合があります。Linux では、以前の動作を実現する方法の 1 つとして、RPM パッケージマネージャの `-noscripts` オプションを使用できます。VRTSnbpcck パッケージのインストール時にこのオプションを指定すると、構成の手順を回避できます。このオプションは、その他のパッケージをインストールする場合に指定する必要はありません。この場合でも応答ファイルは存在する必要がありますが、指定する必要がある値は、マシンのロール (クライアントまたはメディアサーバーのいずれか) のみです。次に例を示します。

```
echo "MACHINE_ROLE=CLIENT" > /tmp/NBInstallAnswer.conf  
rpm -U --noscripts VRTSnbpck.rpm  
rpm -U VRTSspbx.rpm VRTSnbclt.rpm VRTSpddea.rpm
```

NetBackup サーバーで RFC 1123 と RFC 952 に準拠したホスト名を使用する必要がある

NetBackup 8.0 以降では、すべての NetBackup サーバー名に RFC 1123 (「Requirements for Internet Hosts - Application and Support」) と RFC 952 (「DOD Internet Host Table Specification」) の規格に準拠するホスト名を使用する必要があります。これらの規格には、ホスト名に使用できる文字と使用できない文字が規定されています。たとえば、ホスト名にアンダースコア文字 (_) は使用できません。

これらの規格とこの問題に関して詳しくは、次の資料を参照してください。

[RFC 952](#)

[RFC 1123](#)

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.000125019

これらの規格は、すべての NetBackup ホストを含む、すべての計算ホストに適用する必要があります。レガシーの環境と機能に対応するため、2010 年より前に実装された NetBackup 機能では、一部の準拠しない文字が引き続き許可されます。ただし、これより新しい機能や最近統合されたサードパーティコンポーネントは、業界規格に準拠しないホスト名についてテストされておらず、このようなホスト名との互換性はない可能性があります。

状況によっては、規格に準拠するネットワークホスト名のエイリアスでネームサービスを構成し、NetBackup を構成するときにエイリアスを使用できる場合があります。ただし、すべての機能との互換性が確実なのは、規格に準拠するホスト名を使用した場合です。

HP-UX Itanium vPars SRP のコンテナのサポートについて

Hewlett-Packard Enterprise (HPE) は、HP-UX Virtual Partitions (vPars) 対応サーバーに Secure Resource Partitions (SRP) という新しいタイプのコンテナを導入しました。SRP で導入されたセキュリティ変更の一部として、swinstall や swremove などのネイティブ HP-UX インストールツールの SRP 環境内での実行は無効です。swinstall と swremove ツールは vPars を実行しているグローバルホストからのみ呼び出すことが可能で、SRP コンテナにネイティブパッケージをプッシュインストールします。

NetBackup はグローバルビューへのインストールのみをサポートします。HPE Itanium SRP コンテナ (プライベートファイルシステム、共有ファイルシステムまたは作業負荷) へのインストールを試行すると、NetBackup のインストールが失敗します。

NetBackup の管理と一般的な操作上の注意事項

NetBackup は、さまざまなプラットフォームに対して、完全かつ柔軟なデータ保護ソリューションを提供します。対象となるプラットフォームには、Windows、UNIX、Linux システムなどが含まれます。データ保護機能の標準セットに加えて、NetBackup は他の複数のライセンス付与されたコンポーネントとライセンス付与されていないコンポーネントを活用して、さまざまな異なるシステムや環境をより強力に保護できます。このトピックでは、NetBackup 10.3 の管理に関連する一般的な操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースコマンドの変更点

nbdb_admin -start コマンドと -stop コマンドの変更

コマンド `nbdb_admin -start` および `nbdb_admin -stop` は、NetBackup データベースサーバーを開始および停止しなくなりました。現在は NetBackup データベースサーバーの特定のデータベースを開始または停止します。

メモ: `-stop` オプションによって NetBackup データベースをオフラインにする前に、実行中のすべてのサービス (NetBackup Scale-Out Relational Database を除く) を停止します。

nbdb_admin -vxdbms_nb_server コマンドの変更

コマンド `nbdb_admin -vxdbms_nb_server` は NetBackup 10.2 リリースで削除されました。このコマンドは NetBackup 10.3 で再度追加されました。

一部の作業負荷環境におけるアップグレード前のジョブデータベースのサイズの削減

NetBackup 9.1 へのアップグレード後に、資産レベルでのアクセス制御を可能にするため、特定の作業負荷に対する既存のジョブに資産の名前空間が割り当てられます。この処理には時間がかかる場合があります。アップグレードの前にジョブデータベースのサイズを減らす必要があります。この処理により、関連付けを実行するために必要な処理の量が最小化され、Web サービスのパフォーマンスに与える影響が最小限に抑えられます。非常に大規模なジョブデータベースでは、ヒープ領域の高使用率に関連したアラートが表示される場合があります。

影響を受ける作業負荷には、クラウド、Nutanix AHV、RHV、VMware が含まれます。

詳しくは、次の記事を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/100049808>

Replication Director を使用するポリシーがエラーコード 4224 で失敗する

NetBackup Web UI で [Replication Director を使用 (Use Replication Director)] オプションおよび [スナップショットバックアップを実行する (Perform snapshot backups)] オプションが選択された既存のポリシーを変更しようとする、次のエラーが表示されます。

Error code 4224: Host. STS Internal Error

BPFIS ログに次のメッセージが表示されます。

```
15:16:13.416 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.416029 <Thread id - 1> Failed to wait for

operation result, Error code [2060017] and message [system call
failed]
15:16:13.417 [35337] <2> onlfi_vfms_logf: INF - snapshot services:
ostfi:2023-09-26 15:16:13.417125 <Thread id - 1> OST Library call
failed with message (STS API waitForAsyncCall failed with error
code : 2060017)
```

回避方法:

次のいずれかの操作を実行します。

- エラーが表示された [ポリシーの検証 (Policy validation)] ダイアログボックスで、[エラーを無視して保存 (Ignore errors and save)] をクリックします。NetBackup 管理コンソール (Java UI) を開き、ポリシーを編集して保存します。
- エラーが表示された [ポリシーの検証 (Policy validation)] ダイアログボックスで、[ポリシーを編集 (Edit policy)] をクリックします。ポリシーを保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。トポロジー検証オプションが表示された [ポリシーの検証 (Policy validation)] ダイアログボックスで、トポロジー検証オプションとして、[完了 (Complete)] ではなく [なし (None)] または [基本 (Basic)] を選択して保存します。

NetBackup マルウェアユーティリティから応答を取得できない

この問題は、RHEL 8.x および NFS バージョン 4.x のスキャンホストに該当します。

2 億以上のファイルの大規模なバックアップをスキャンする場合、失敗したジョブについて NetBackup Web UI に次のエラーが表示されます。

Failed to get response from NetBackup malware utility.

スキャンホストでのスキャンの進行中に、NFS マウントポイントにスキャンホストからアクセスできません。スキャンジョブは進行中のままになり、2 日後にタイムアウトします。ストレージサーバーの NFS エクスポートにアクセスできます。

回避方法:

スキャンホストの `/etc/nfsmount.conf` ファイルに次を構成して、NFS を介したスキャンホストでの IA マウントに NFS バージョン 3 を使用していることを確認します。

```
# grep Defaultvers /etc/nfsmount.conf Defaultvers=3
```

NetBackup 管理インターフェースの操作上の注意事項

NetBackup 管理者には、NetBackup の管理に使用できる複数のインターフェースの選択肢があります。すべてのインターフェースには同様の機能があります。このトピックでは、NetBackup 10.3 のこれらのインターフェースに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

個々の NetBackup 管理インターフェースについて詳しくは、『NetBackup Web UI 管理者ガイド』または『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

インターフェースをインストールする方法については、『NetBackup インストールガイド』を参照してください。管理コンソールとプラットフォームの互換性については、Veritas のサポート Web サイトにある各種の NetBackup 互換性リストを参照してください。

p.51 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

[カタログ (Catalog)] 領域で列を追加または削除する際に NetBackup Web UI で遅延が発生する

Web UI の [カタログ (Catalog)] 領域では、イメージのテーブルに対して列の追加や削除を行えます。表示されるイメージが多いほど、列を追加または削除する際に、インターフェースの更新に時間がかかります。この問題は、今後のリリースで修正される予定です。

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングで断続的に問題が発生する

NetBackup 管理コンソールの X フォワーディングにおいて、断続的に問題が発生する場合があります。この動作は、X フォワーディングを使用するときのみ発生します。この問題は、ローカルコンソールでは発生しません。問題の多くは Linux サーバーにおいて発生しますが、それに限定されるものではありません。この問題は、一般的には Xming や XBrowser などの古いバージョンの X ビューアが使用されたときに発生します。

MobaXterm を使用すると、問題の発生を最小限に抑える、または問題を解消できるとも考えられます。X フォワーディングで問題が発生した場合には、X ビューアをアップグレードして同じ操作を試みるか、またはローカルコンソールからサーバーにアクセスしてください。

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使用すると、NetBackup 管理コンソールでエラーが発生する

Solaris 10 Update 2 以降がインストールされている Solaris SPARC 64 ビットシステムで簡体中国語 UTF-8 ロケールを使うと、NetBackup 管理コンソールのコアダンプの問題が発生する場合があります。詳しくは、Oracle 技術ネットワーク Web サイトで次の URL からバグ ID 6901233 を参照してください。

http://bugs.sun.com/bugdatabase/view_bug.do?bug_id=6901233

この問題が発生した場合は、Oracle が提供する Solaris のパッチまたはアップグレードを適用し、この問題を修復してください。

NetBackup Bare Metal Restore の操作上の注意事項

NetBackup Bare Metal Restore (BMR) では、サーバーのリカバリ処理が自動化され簡素化されるため、オペレーティングシステムの再インストールまたはハードウェアの構成を手動で実行する必要がなくなります。このトピックでは、NetBackup 10.3 の BMR に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

PIT リストア後[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]というエラーが表示される

指定した時点 (PIT) のリストア操作 (完全ファイルシステムリストアまたは BMR リストアのいずれかが含まれる場合がある) が実行された後、エラーメッセージ[ホスト ID が存在しません (The host ID does not exist)]が表示されます。

このシナリオでは、root または管理者アカウントとして SERVICE_USER が構成されている場合に完全バックアップが実行されます。このアカウントは、root または管理者の所有権を持つ NetBackup のインストール済みバイナリのバックアップを取得します。リストアの前に、root または管理者以外アカウントで SERVICE_USER が構成され、サービスユーザーが bp.conf の一部としてバックアップされる増分バックアップが取得されます。増分バックアップによる PIT リストア操作では、SERVICE_USER エントリがリストアされます。ただし、バイナリは root アカウントの所有権でリストアされます。

回避方法:

サービスユーザーを変更した後、ファイルシステムの MS-Windows¥Standard Policy か BMR ポリシー構成にかかわらず、完全バックアップを作成する必要があります。

NetBackup 10.3 での AIX BMR SRT (共有リソースツリー) の作成が失敗する

SRT (共有リソースツリー) の作成中に、コマンドラインコンソールに次のエラーメッセージが表示されます。

```
lslpp: Fileset libc++.rte not installed.
```

```
ERROR: Could not resolve major version level from [].
```

```
ERROR: Detected an attempt to install incorrect platform and/or  
operating system and version client binaries on  
falcnal2c3.abcus.abc.com.
```

```
Required AIX OS libc++.rte runtime is not present.
```

```
File /tmp/install_trace.xxxxxxxx contains a trace of this  
install. That file can be deleted after you are sure the  
install was successful.
```

```
Do you want to retry install of Veritas NetBackup Client? (y/n) [y]  
:
```

AIX BMR SRT の作成中に NetBackup 10.3 クライアントをインストールするときは、SRT 内に `libc++` ランタイムバージョン 16.1.0.7 以降が必要です。`libc++` ランタイムバージョンが、作成時の AIX BMR SRT に存在しない場合、NetBackup 10.3 クライアントのインストールが失敗し、これにより SRT 作成エラーが発生します。

回避方法:

回避策について詳しくは、この技術情報の記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100060647

Linux クライアントでの BMR リストア後に NetBackup サービスが自動的に起動しないことがある

Linux クライアントで BMR (Bare Metal Restore) のリストア操作を実行した後、NetBackup サービスが自動的に起動しないことがあります。

BMR リストア操作後に NetBackup サービスがしばらく実行され、BMR のリストア後のスクリプトが正常に完了する場合があります。しかし、その後で NetBackup サービスが停止することがあります。

この問題は、サービスユーザーが、NetBackup Linux クライアントで定義されている `root` ユーザーと異なる場合にのみ発生します。

回避方法:

Linux クライアントで NetBackup サービスを手動で起動します。サービスを起動するには、次のコマンドを実行します。

```
/usr/opensv/netbackup/bin/bp.start_all
```

NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷の操作上の注意事項

この項では、バージョン 10.3 の NetBackup クラウドオブジェクトストアの作業負荷に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

NetBackup バージョン 10.3 から 10.1 までの AIR (自動イメージレプリケーション) が機能しない

NetBackup バージョン 10.3 から 10.1 までの AIR (自動イメージレプリケーション) が機能しません。

回避方法:

なし。ターゲットコンピュータを少なくとも NetBackup バージョン 10.2 にアップグレードします。

Azure で、古いポリシーが新しいバックアップホストで更新されるとバックアップが失敗する

Azure で、10.3 より前の NetBackup バージョンで作成されたポリシーを新しいバックアップホストで更新すると、バックアップは失敗します。

バージョン 10.3 の修正された問い合わせ形式がこの問題の原因です。

回避方法:

バケット内のすべての既存の問い合わせを新しい形式に更新します。

レプリケートされたバックアップを古い NetBackup バージョンにリストアできない

NetBackup 10.3 で作成されたバックアップイメージを古い NetBackup バージョンにレプリケートする場合、古いバージョンの NetBackup を使用してデフォルトの保持が有効になっているバケットまたはコンテナをリストアできません。

回避方法:

1. NetBackup バージョン 10.3 以降でリストアします。
2. イメージを NetBackup バージョン 10.3 以降にレプリケートします。

NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup CloudPoint)

この項では、NetBackup Snapshot Manager (以前の NetBackup with Veritas CloudPoint) および NetBackup 10.3 に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

AWS マーケットプレイス AMI から作成されたインスタンスでインデックス付けがサポートされない

AWS マーケットプレイス AMI から作成されたインスタンスのインデックス付け処理は、次のエラーで失敗します。

```
Failed to attach new volume: Cannot attach volume <vol-xxx>  
with Marketplace codes as the instance <i-xxx>  
is not in the 'stopped' state.
```

NetBackup NAS の操作上の注意事項

NetBackup Snapshot Manager および NDMP V4 スナップショット拡張機能を使用して、クライアントデータのスナップショットを NAS ホスト上に作成できます。NAS スナップショットは、ある特定の時点のディスクイメージです。ディスク上のスナップショットは、任意の期間保持できます。NetBackup のインスタントリカバリ機能を使用すると、ディスクから効率的にデータをリストアできます。多くの場合、NetBackup では、NAS-Data-Protection ポリシーと NDMP ポリシーを使用して、NAS のスナップショットベースのデータ保護を実行できます。このトピックでは、NetBackup 10.3 の NetBackup NAS に関連する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

ファイルパスの親ディレクトリが NDMP 増分イメージに存在しないことがある

NetBackup のネットワークデータ管理プロトコル (NDMP) バックアップポリシーをバックアップ選択項目の `set type=tar` 指示句で設定している場合に、問題が起きることがあります。増分 NDMP バックアップが保存するファイルのパスの親ディレクトリはバックアップイメージに存在しない場合があります。この問題について詳しくは、ベリタス社のサポート Web サイトで次の TechNote を参照してください。

<http://www.veritas.com/docs/000095049>

RD ストレージユニットがレプリケーションターゲットとして一覧表示されない

NetBackup Web UI から SLP (ストレージライフサイクルポリシー) を構成するときに、RD (Replication Director) ストレージユニットが [宛先ストレージの属性 (Destination storage attributes)] の [レプリケーションターゲット (Replication target)] ドロップダウンに表示されません。この状況は、同じプライマリサーバーに ISM と RD の両方のレプリケーションターゲットを構成した場合に発生します。

回避方法:

NetBackup 管理コンソール (Java UI) またはコマンドラインインターフェース (CLI) を使用して SLP を構成します。

NetBackup for OpenStack の操作上の注意事項

NetBackup for OpenStack はオプションの NetBackup アプリケーションです。このトピックでは、NetBackup 10.3 の NetBackup for OpenStack に関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

CentOS リポジトリミラー URL の更新

CentOS リポジトリミラー URL は、`mirror.centos.org` から `vault.centos.org` に更新されました。`/etc/yum.repos.d/CentOS-*` にあるすべての Yum リポジトリファイルで更新する必要があります。

haproxy 接続で NetBackup for OpenStack Datamover API (NBOSDMAPI) サービスがタイムアウトする

haproxy 接続の NBOSDMAPI サービスは、使用率の高い環境で応答時間に時間がかかることが原因でタイムアウトする場合があります。

ほとんどの環境では、デフォルトの haproxy 構成で正常に動作します。NBOSDMAPI でタイムアウトの問題が発生した場合は、haproxy 構成をカスタマイズしてください。詳しくは、次のテクニカルノートを参照してください。

https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100052551

増分バックアップのインスタンスボリュームをマウントできない

増分バックアップ用インスタンスに新たに追加されたディスクは正常にバックアップされますが、これらのディスクはマウントできません。

NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup プライマリサーバーがトークンを再発行しない

NetBackup VM が 3 ノードクラスタの場合、NetBackup コンフィギュレータにおける NetBackup 証明書のトークンの再発行が機能しません。

回避方法:

この問題を解決するには、プライマリサーバーでトークンの自動再発行の許可を有効にします。NetBackup コンフィギュレータの[トークン (Token)]フィールドに "" と入力する必要があります。この構成では、プライマリサーバーが提供した証明書が NetBackup for OpenStack VM にすでに存在する場合は続行できます。

スナップショットがあるポリシーを削除すると、エラーメッセージとともに成功メッセージが表示される

スナップショットがあるポリシーを削除すると、次の成功メッセージとエラーメッセージが表示されます。ただしポリシーは削除されないため、エラーメッセージのみが表示されるべきです。

- Error: Invalid state: This policy contains snapshots. Please delete all snapshots and try again.
- Success: Deleted: <policy name>

NBCA を使用して NetBackup プライマリサーバーに接続できない

NetBackup VM の構成中に NetBackup プライマリサーバー名を入力すると、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to establish connection with the NetBackup master server.
Error: HTTPSConnectionPool(host='NBU.master.server', port=443): Max
retries exceeded with url: /netbackup/security/ping (Caused by
NewConnectionError('<urllib3.connection.HTTPSConnection object at
0x7f9e466b0ef0>: Failed to establish a new connection: [Errno -2]
Name or service not known',))
```

回避方法:

この問題を解決するには、`/etc/hosts` に IP ホスト名マッピングを追加します。

詳しくは、次のサポート記事を参照してください。

https://www.veritas.com/support/en_US/article.100045941

リストア後に除外された Ceph ボリュームをマウントまたはフォーマットできない

Ceph に格納されている VM ボリュームは、必要に応じてバックアップから正常に除外されます。

リストアによって空の Ceph ボリュームが作成されますが、このボリュームは接続またはフォーマットできません。

リストアされた VM に空のメタデータ config_drive が接続される

リストアのたびに、メタデータ config_drive が空白値で設定されます。

回避方法:

メタデータ config_drive を削除するか、必要な値を設定します。

新しい NetBackup VM をクラスタに追加するとき、NBOSVM の再構成に失敗する

既存の NetBackup VM にノードを追加するとき、NetBackup の再構成に失敗します。

理由は、以前の MySQL パスワードが機能しておらず、MySQL のルートアクセスがリセットされたためです。

回避方法:

構成済みの NetBackup VM の /root/.my.cnf ファイルを削除し、再構成します。

NetBackup クラスタで新しいノードを取得した後にデータベースが同期されない

NetBackup の再構成後に、既存の NetBackup VM クラスタにさらに 2 つのノードを追加した場合（「インポートポリシー」が未選択）、データベースは既存の NetBackup VM と同期されません。

2 つの新しいノードを追加する間、node1 のデータベースが 2 つの新しいノードと同期され、新しい 3 ノードの NetBackup VM クラスタで再構成後に既存のポリシーを利用できることが期待されます。

回避方法:

CLI からポリシーのインポートを実行します。

ブートディスク上のデータが除外されているにもかかわらずバックアップされる

VM のメタデータ `exclude_boot_disk_from_backup` は `true` に設定されていましたが、リストアされたインスタンスは、データがバックアップおよびリストアされたことを示していません。

再初期化とインポートの後、OpenStack 証明書が見つからない

再初期化では、OpenStack との通信に使用されるアップロード済みの OpenStack 証明書は保持されません。

回避方法:

証明書を再度アップロードします。

CLI でのインポートによってスケジューラの信頼の値が無効に変更される

CLI でインポート機能を使用すると、スケジューラの信頼が有効から無効に変更されません。

回避方法:

再初期化後に、UI からインポートオプションを使用して NetBackup を構成します。

NetBackup Appliance を再初期化した後、ノードの詳細を取得できない

NetBackup Appliance を再初期化した後、UI と CLI にノードの情報が表示されません。

回避方法:

NetBackup ノードで `nbosjm-policies` および `nbosjm-cron` サービスを再起動します。

```
systemctl restart nbosjm-policies
```

```
systemctl restart nbosjm-cron
```

多数のポリシージョブが同時に実行されるとスナップショットが「object is not subscribable」で失敗する

25 を超えるポリシーを同時に実行すると、エラーが発生します。nbosdmapi サービスが応答しません。

スナップショットは `Object is not subscribable`. エラーで失敗します。

回避方法:

既知の回避方法を実行するには、ベリタスのサポートにお問い合わせください。

SSL 対応 Keystone URL に対して安全でない方法での操作が許可されない

SSL 対応 OpenStack の場合、TLS CA 証明書バンドルの欠落エラーでバックアップジョブとリストアップジョブが失敗します。

回避方法:

提供された OpenStack CA を使用して NetBackup Appliance を構成します。

または、OpenStack CA を `/etc/nbosjm/ca-chain.pem` に含めます。

NetBackup の国際化と日本語化の操作に関する注意事項

このトピックでは、NetBackup 10.3 の国際化、日本語化、および英語以外のローケールに関する操作上の注意事項と既知の問題について説明します。

データベースおよびアプリケーションエージェントでのローカライズ環境のサポート

NetBackup データベースおよびアプリケーションエージェントの次のフィールドでは、ASCII 以外の文字がサポートされています。

- Oracle:
データファイルパス、表領域名、TNS パス
- DB2:
データファイルパス、表領域名
- SAP:
英語版 SAP は、ローカライズされた OS で動作します。(ローカライズされた SAP フィールドは特にありません。)
- Exchange:
メールボックス、添付ファイルの名前と内容、パブリックフォルダ、連絡先、カレンダー、フォルダ、データベースパス
- SharePoint:
サイトコレクション名、ライブラリ、サイトコレクション内のリスト
- Lotus Notes:
電子メールデータ (.nsf ファイル)
- Enterprise Vault (EV) エージェント:

ボルトストア、パーティション、データ

- **VMware:**
 ユーザー名、パスワード、VM 表示名、データセンター、フォルダ、データストア、リソースプール、VApp、ネットワーク名、VM ディスクパス

特定の NetBackup ユーザー定義の文字列には非 US ASCII 文字を含めないようにする

NetBackup の次のユーザー定義の文字列には、非 US ASCII 文字を含めないようにする必要があります。

- ホスト名 (プライマリサーバー、メディアサーバー、Enterprise Media Manager (EMM) サーバー、ボリュームデータベースホスト、メディアホスト、クライアント、インスタンスグループ)
- ポリシー名
- ポリシーの KEYWORD (Windows のみ)
- バックアップ、アーカイブ、およびリストアの KEYWORD (Windows のみ)
- ストレージユニット名
- ストレージユニットディスクのパス名 (Windows のみ)
- ロボット名
- デバイス名
- スケジュール名 (Schedule Name)
- メディア ID
- ボリュームグループ名 (Volume group name)
- ボリュームプール名
- メディアの説明 (Media description)
- Vault ポリシー名
- Vault レポート名
- BMR 共有リソースツリー (SRT) 名
- トークン名
- ストレージライフサイクルポリシー (SLP) 名

NetBackup ユーザーの SORT について

この付録では以下の項目について説明しています。

- [Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)

Veritas Services and Operations Readiness Tools について

Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) は、Veritas エンタープライズ製品をサポートするスタンドアロンと Web ベースの強力なツールセットです。

NetBackup では、SORT によって、複数の UNIX/Linux または Windows 環境にまたがってホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。このデータは、システムで NetBackup の最初のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを評価するのに役立ちます。

次の Web ページから SORT にアクセスします。

<https://sort.veritas.com/netbackup>

SORT ページに移動すると、次のようにより多くの情報を利用可能です。

- インストールとアップグレードのチェックリスト
このツールを使うと、システムで NetBackup のインストールまたはアップグレードを行う準備ができていかどうかを確認するためのチェックリストを作成できます。このレポートには、指定した情報に固有のソフトウェアとハードウェアの互換性の情報がすべて含まれています。さらに、製品のインストールまたはアップグレードに関する手順とその他の参照先へのリンクも含まれています。
- Hotfix と EEB Release Auditor
このツールを使うと、インストールする予定のリリースに必要な Hotfix が含まれているかどうかを調べることができます。

- カスタムレポート
このツールを使うと、システムと Veritas エンタープライズ製品に関する推奨事項を取得できます。
- NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定
このツールを使用すると、今後 Veritas が新しい機能や改善された機能と置き換える項目に関する情報を入手できます。さらに、今後 Veritas が置き換えることなく廃止する項目に関する情報を入手することもできます。これらの項目のいくつかには NetBackup の特定の機能、サードパーティ製品の統合、Veritas 製品の統合、アプリケーション、データベースおよび OS のプラットフォームが含まれます。

SORT ツールのヘルプが利用可能です。SORT ホームページの右上隅にある[ヘルプ (Help)]をクリックします。次のオプションがあります。

- 実際の本のようにページをめくってヘルプの内容を閲覧する
- 索引でトピックを探す
- 検索オプションを使ってヘルプを検索する

NetBackup のインストール要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のインストール要件について](#)
- [NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新](#)
- [NetBackup 10.3 のバイナリサイズ](#)

NetBackup のインストール要件について

今回の NetBackup のリリースには、インストールに必要な最小システム要件と手順への変更が含まれている可能性があります。これらの変更は、Windows と UNIX の両方のプラットフォームの最小システム要件に影響します。『NetBackup リリースノート』のインストール指示に関する多くの情報は、利便性を考慮して提供されています。インストール指示について詳しくは、『NetBackup インストールガイド』および『NetBackup アップグレードガイド』に記載されています。

p.28 の「[NetBackup のインストールとアップグレードの操作上の注意事項](#)」を参照してください。

- NetBackup サーバーソフトウェアをアップグレードする前に、NetBackup カatalogをバックアップして、カatalogバックアップが正常に終了したことを確認する必要があります。
- NetBackup 10.3 にアップグレードする前に、NetBackup リレーショナルデータベースの 2 倍のサイズの空きディスク領域があることを確認します。つまり、プライマリサーバーのデフォルトインストールに対して、/usr/opensv/db/data (UNIX) または `<install_path>%Veritas%NetBackupDB\data` (Windows) のディレクトリを含むファイルシステムにそれだけの空き領域が必要です。これらのいずれかのディレクトリの一部のファイルの場所を変更する場合は、その場所にファイルのサイズ以上の空

き領域が必要です。代替の場所への NBDB データベースファイルの格納について詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。

メモ: この空きディスク領域の要件は、アップグレードを始める前に、カタログバックアップを正常に終了するためのベストプラクティスを実行していることを前提としています。

- プライマリサーバーとメディアサーバーでは、NetBackup を正常に実行するために、プロセス単位のファイル記述子の最小ソフト制限を 8000 にする必要があります。ファイル記述子の数が不十分な場合の影響の詳細については、Veritas のサポート Web サイトの次の記事を参照してください。
<http://www.veritas.com/docs/000013512>
- NetBackup のプライマリサーバーとメディアサーバーは、起動時および 24 時間ごとにサーバーのバージョン情報を交換します。この交換は自動的に行われます。アップグレード後の起動時に、アップグレードされたメディアサーバーは vmd サービスを使って自身のバージョン情報をサーバーリストに示されているすべてのサーバーにプッシュします。
- Veritas は、メディアサーバーのアップグレードの実行中は、プライマリサーバーのサービスを起動して利用可能な状態にしておくことをお勧めします。
- すべての圧縮ファイルは gzip を使用して圧縮されています。これらのファイルのインストールには gunzip と gzip が必要なので、NetBackup をインストールする前にコンピュータにこれらがインストールされていることを確認します。HP-UX を除くすべての UNIX プラットフォームでは、パイナリは /bin または /usr/bin に存在し、このディレクトリが root ユーザーの PATH 変数に含まれていると想定されています。HP-UX システムでは、gzip コマンドおよび gunzip コマンドは /usr/contrib/bin に存在すると想定されています。インストールスクリプトを実行すると、PATH 変数にこのディレクトリが追加されます。UNIX でインストールを正常に実行するには、これらのコマンドが存在する必要があります。

NetBackup に必要なオペレーティングシステムパッチと更新

NetBackup のサーバーおよびクライアントのインストールは、NetBackup のすべてのバージョンの互換性リストに一覧表示されているオペレーティングシステム (OS) の定義済みセットでのみサポートされます。ほとんどの OS ベンダーが、製品のパッチ、更新、およびサービスパック (SP) を提供しています。プラットフォームのテスト時には OS の最新の SP または更新レベルでテストすることが、NetBackup のクオリティエンジニアリングのベストプラクティスです。したがって、NetBackup はすべてのベンダー GA 更新 (n.1、n.2 など) または SPS (SP1、SP2 など) でサポートされます。ただし、既知の互換性の問題が特定の SP または更新された OS レベルに存在する場合、この情報は互換性リスト

で特定されます。このような互換性の問題が見られない場合、Veritas は、サーバーとクライアントに最新の OS 更新をインストールしてから NetBackup をインストールまたはアップグレードすることをお勧めします。

NetBackup 10.3 およびその他の NetBackup リリースに関する最新の必須 OS パッチ情報は、[Veritas SORT \(Services and Operational Readiness Tools\) Web サイト](#)および [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)で確認できます。互換性リストには、最新のメジャーリリースラインでの最小の NetBackup バージョンをサポートするために必要な最小の OS レベルに関する情報が含まれます。場合によっては、NetBackup の新しいリリースが特定のベンダーによる OS 更新またはパッチを必要とすることがあります。

p.51 の「[NetBackup の互換性リストと情報について](#)」を参照してください。

p.43 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup 10.3 のバイナリサイズ

表 B-1に、サポートされているさまざまなオペレーティングシステムの NetBackup 10.3 プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントソフトウェアに対する概算のバイナリサイズを示します。これらのバイナリサイズは、初回インストール後に製品が占有するディスク容量を示します。表にリストされているサイズの場合、1 MB は 1024 KB に相当します。

メモ: NetBackup 8.3 では、Java GUI および JRE パッケージは、ほとんどのクライアントとメディアサーバーで省略可能です。パッケージサイズは、Java GUI と JRE を使用して計算されています。

メモ: 表には、サポートされているオペレーティングシステムのみが表示されています。NetBackup が現在サポートしている最新のオペレーティングシステムのバージョンについては、[Services and Operations Readiness Tools \(SORT\) Web サイト](#)または [NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)を参照してください。

表 B-1 互換性のあるプラットフォームの NetBackup のバイナリサイズ

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
AIX	POWER	1,735 MB	サポート終了	

OS	CPU アーキテクチャ	64ビットのクライアント	64ビットのサーバー	注意事項
Canonical Ubuntu	x86-64	2,148 MB		
CentOS	x86-64	2,148 MB	9,652 MB	
Debian GNU/Linux	x86-64	2,148 MB		
Kylin Linux Advanced Server 10.0		2,148 MB		
NeoKylin Linux Advanced Server		2,148 MB		
Oracle Linux	x86-64	2,148 MB	9,652 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	POWER	427 MB		
Red Hat Enterprise Linux Server	x86-64	2,105 MB	9,370 MB	
Red Hat Enterprise Linux Server	z/Architecture	1,082 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Rocky Linux クライアント		2,148 MB		
Solaris	SPARC	1,521 MB	サポート終了	
Solaris	x86-64	1,506 MB	サポート終了	
SUSE Linux Enterprise Server	POWER	432 MB		
SUSE Linux Enterprise Server	x86-64	1,474 MB	6,903 MB	
SUSE Linux Enterprise Server	z/Architecture	1,082 MB	サポート終了	メディアサーバーまたはクライアントとの互換性のみ。
Windows	x86-64	716 MB	5,061 MB	互換性のあるすべての Windows x64 プラットフォームが含まれます。

次の領域の要件は **Windows** に **NetBackup** をインストールする場合にも適用される場合があります。

- **Windows** システム上のデフォルトではない場所に **NetBackup** をインストールする場合、ソフトウェアの一部はアプリケーションフォルダのプライマリの場所に関係なく、システムドライブにインストールされます。システムドライブ上で必要な領域は通常、表に表示されている合計バイナリサイズの **40～50%** になります。
- **NetBackup** サーバーを **Windows** クラスタにインストールする場合、ソフトウェアの一部はクラスタの共有ディスクにインストールされます。クラスタの共有ディスク上で必要な領域は、表に表示されているバイナリサイズに加えて必要なものです。必要な追加領域は合計バイナリサイズの **15～20%** です。

NetBackup の互換性の要件

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup のバージョン間の互換性について](#)
- [NetBackup の互換性リストと情報について](#)
- [NetBackup の End-of-Life のお知らせについて](#)

NetBackup のバージョン間の互換性について

プライマリサーバー、メディアサーバー、およびクライアントの間で、バージョンが異なる NetBackup を実行できます。この旧バージョンのサポートによって、NetBackup サーバーを 1 つずつアップグレードして、全体的なシステムパフォーマンスに与える影響を最小限に抑えることができます。

Veritas ではサーバーとクライアントの特定の組み合わせのみがサポートされています。バージョンが混在する環境では、特定のコンピュータが最新のバージョンである必要があります。具体的には、バージョンの順序をプライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントのようにします。たとえば、10.0 プライマリサーバー > 9.0 メディアサーバー > 8.3.0.1 クライアントというシナリオがサポートされます。

NetBackup バージョンはすべて 4 桁の長さです。NetBackup 10.0 リリースは 10.0.0.0 リリースです。同様に、NetBackup 9.1 リリースは NetBackup 9.1.0.0 リリースです。サポート目的では、4 番目の数字は無視されます。9.1 プライマリサーバーは 9.1.0.1 メディアサーバーをサポートします。サポートされない例は、9.1 プライマリサーバーと 10.0 メディアサーバーの組み合わせです。

NetBackup カタログはプライマリサーバー上に存在します。したがって、プライマリサーバーはカタログバックアップのクライアントであると見なされます。NetBackup 構成にメディ

アサーバーが含まれている場合は、プライマリサーバーと同じ NetBackup バージョンを使ってカタログバックアップを実行する必要があります。

NetBackup バージョン間の互換性について詳しくは、[Veritas SORT Web サイト](#)を参照してください。

Veritas は [EOSL](#) 情報をオンラインで確認することをお勧めします。

NetBackup の互換性リストと情報について

『NetBackup リリースノート』のドキュメントには、NetBackup のバージョン間で実施された大量の互換性の変更に関する記述が含まれています。ただし、プラットフォーム、周辺機器、ドライブ、ライブラリの最新の互換性情報は、NetBackup の Veritas Operations Readiness Tools (SORT) Web サイトにあります。

p.43 の「[Veritas Services and Operations Readiness Tools について](#)」を参照してください。

NetBackup では、SORT によって、インストールとアップグレードのチェックリストのレポートと、既存の複数の環境にわたりホストの設定を収集、分析、報告する機能が提供されます。さらに、ご使用の環境にインストールした Hotfix や EEB がどのリリースに含まれているかを特定できます。このデータを使って、システムで特定のリリースのインストールまたはアップグレードを行う準備ができていないか評価します。

NetBackup 互換性リスト

SORT に加えて、Veritas はお客様がすぐに NetBackup の最新の互換性情報を参照できるようにさまざまな互換性リストを提供しています。

[NetBackup のすべてのバージョンの互換性リスト](#)

メモ: 相互に互換性がある NetBackup のバージョンについて詳しくは、ソフトウェア互換性リスト (SCL)、SCL 内の [NetBackup のバージョン間の互換性 (Compatibility Between NetBackup Versions)] の順に選択します。

NetBackup の End-of-Life のお知らせについて

Veritas は多種多様なシステム、プラットフォーム、オペレーティングシステム、CPU アーキテクチャ、データベース、アプリケーション、ハードウェアに対し、可能なかぎり優れたデータ保護を提供することに取り組んでおります。Veritas社は、今後も NetBackup システムのサポートを見直してまいります。これにより、製品の既存のバージョンの保守と、以下についての新しいサポートの導入とを適切なバランスで行っていくことができます。

- General Availability リリース
- 新しいソフトウェアおよびハードウェアの最新バージョン

■ 新しい NetBackup の機能

Veritas が新しい機能とシステムのサポートを絶え間なく追加していく一方で、NetBackup のサポートの中には改善、置換、削除が必要なものもあります。これらのサポート処理は、古い、またはあまり使われない機能に影響することがあります。影響を受ける機能には、ソフトウェア、OS、データベース、アプリケーション、ハードウェア、サードパーティ製品との統合に関するサポートが含まれることがあります。また、場合によっては製造元によるサポートが終了しているか、サポート期間終了間際の製品が含まれる場合もあります。

Veritas社は NetBackup のさまざまな機能のサポートに変更があった場合でもお客様に支障のないように詳細な通知を提供してサポートいたします。Veritas社は、NetBackup の次のリリースでサポートされない古い製品機能、システム、サードパーティ製のソフトウェア製品をリスト化していく予定です。Veritas 可能であれば、ベリタスによって、メジャーリリースの前に最低 6 カ月で可能なかぎり早くこれらのサポートリストを利用できるようにします。

SORT の利用

今後のプラットフォームおよび End-of-Life (EOL) 情報を含む機能サポートの詳細な通知は、Veritas Services and Operations Readiness Tools (SORT) for NetBackup のホームページにあるウィジェットから入手できます。SORT for NetBackup のホームページにある[NetBackup のプラットフォームと機能の今後の予定 (Future Platform and Feature Plans)]ウィジェットは、次の場所から直接見つけることができます。

<https://sort.veritas.com/nbufutureplans>

NetBackup の End-of-Support-Life (EOSL) 情報は、次の場所から入手することもできます。

https://sort.veritas.com/eosl/show_matrix

p.43 の「Veritas Services and Operations Readiness Tools について」を参照してください。

プラットフォーム互換性の変更について

NetBackup 10.3 リリースには、さまざまなシステムのサポートにおける変更も実装されています。SORT の利用に加え、『NetBackup リリースノート』ドキュメントおよび NetBackup の互換性リストを確認してから、NetBackup ソフトウェアをインストールまたはアップグレードする必要があります。

p.10 の「NetBackup の新しい拡張と変更について」を参照してください。

<http://www.netbackup.com/compatibility>

他のNetBackup マニュアル および関連マニュアル

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup の関連マニュアルについて](#)

NetBackup の関連マニュアルについて

Veritas は、NetBackup ソフトウェアに関連するさまざまなガイドと技術マニュアルをリリースしています。特に指定のないかぎり、NetBackup のマニュアルは「[NetBackup Documentation Landing Page](#)」から PDF 形式でダウンロードするか、HTML 形式で参照できます。

NetBackup が新たにリリースされるたびにすべてのマニュアルが公開されるわけではありません。マニュアルには、NetBackup 10.3 用が公開されていない他バージョンのドキュメントの参照が記載されている場合があります。このような場合は、参照可能な最新バージョンのマニュアルをご覧ください。

メモ: Veritas は、PDF リーダーソフトウェアのインストールおよび使用に関する責任を負いません。

UNIX に関するすべての内容は、特に指定しないかぎり、Linux プラットフォームにも適用されます。
